

福祉土木委員会管外行政調査結果報告

1. 日時 令和3年11月10日(水)(1日間)

2. 視察先 福岡県福津市
(ZOOMによるオンライン視察)

3. 目的 「生活支援コーディネーター」について

4. 参加者	委員長	畑 中 政 昭	副委員長	明 石 宏 隆
	委員	阪 口 茂	委員	木 戸 晃
	委員	寺 島 誠	委員	永 山 誠
	委員	清 水 明 治		

上記調査事項について、別添のとおり報告いたします。

令和3年11月10日

高石市議会

議長 清 水 明 治 様

福祉土木委員会

委員長 畑 中 政 昭

令和3年度 福祉土木委員会管外行政調査（調査内容の概要）

【開催日時】 令和3年11月10日（水） 午前10時 ～ 午前11時30分

【開催場所】 高石市 全員協議会室（ZOOMによるオンライン視察）

- 【流れ】
1. 福津市議会 米山副議長より挨拶
 2. 高石市議会 福祉土木委員会 畑中委員長より挨拶
 3. 福津市高齢者サービス課より調査事項の説明
 4. 福津市生活支援コーディネーターより調査事項の説明
 5. 質疑応答
 6. 高石市議会 福祉土木委員会 明石副委員長よりお礼の挨拶

調査事項報告

1. 福津市の概要について

平成17年に旧福間市と旧津屋崎町が合併し誕生。

福岡市と北九州市の中間で、両市のベットタウンとして栄えてきた。

合併後の事業として、福間駅の住宅開発（UR）と大型商業施設の誘致を行った。これらが現在の発展につながっている。これらの施策により、合併後、特に若い世代の人口が増えた。同時に高齢者人口も増えており、両方の施策が必要となっている。高齢者施策としては、地域包括ケアの推進に力を入れている。

2. 「ささえ合い協議体」について

(1) 「郷づくり地域」について

市域を小学校区である8つの地域に区分し、「郷づくり地域」として定めている。地域によって人口等の差はあるが、それぞれの地域で地域自治のまちづくりを進めている。

(2) 経過

H27年 「地域支援事業勉強会」「生活支援・介護予防の体制整備に向けた研修会」

第1回協議体準備会 その後月1回のペースで合計9回開催

H28年10月「ささえ合い協議体」発足

(3) 各協議体メンバーの取り組み

①民生委員とボランティアによる月1回のサロン活動、健康体操、語ろうタイム

②認知症予防の脳トレ・介護予防体操

③月1回の高齢者の方が気楽に集える場としての行事の開催

(4) 「ささえ合い協議体」の取り組み

2～7回協議体 各地域の活動を発表し合い情報交換。

11～18回協議体 テーマ別にグループとなり意見交換を行う。

22～23回協議体 コミュニティバスについて話し合い、提案書まとめ、市に提出。

26～30回協議体 地域ごとの支援を話し合い、計画表を作成。

33回協議体 自分ができること・お願いしたいことのグループワークを行う。

35～36回協議体 地域で行われている支え合い活動をまとめてカードを作成。

(5) 第2層生活支援コーディネーター

H30年11月設置 第1層協議体で話し合いを進めていく中で、より身近な地域で困りごとを考えていく必要が生じる。メンバーは、自治会長、民生委員・児童委員等。

(6) 福津市外出支援活動団体サポート事業

社会福祉協議会に委託。

買い物、移動が大変 → 「サロン&買い物ツアー in イオンモール」を開催（イオンモールへのバス移動、買い物、モール内ホールでの介護予防講座・体操をセットにしたイベント）

(7) 協議体を通して生まれたこと

視覚障がい者からの提案による点字シール、ユニクロとのつながり、地域サークル団体の関係等

3. 「サンクス」での取り組み

(1) 概要

空き家となっている企業の保養所を借りて改修

いつでも気楽にこれる場所 地域の集いの場、居場所、買い物支援、生活支援の拠点

買い物支援→生産者団体が支援、→移動支援

草刈り、電球の替え、家具の移動などちょっとしたこと →地域で解決

よりあいの場→子供たちの餅つき大会、食事会

月平均来場者数 440人、月平均会館日数 24日

4. 協議体の課題について

H31年2月より新型コロナウイルスの影響により第1層協議体を中止。

R1年7月から第2層エリアを中心として地域での困りごとの解決等に協力。

現在は、社会資源と地域の人を結びつける仕組みづくりを行っている。

5. 地域ケア会議、生活支援コーディネーター、協議体の連動

自立支援型地域ケア会議

通所型サービスC利用者の方が介護サービス卒業後の生活をケアマネジャーが聞きとり。

↓利用者の社会参加できる場について相談 ↑地域にある情報を提供

第2層郷づくりエリア

↓見つからない場合 ↑他地域での取り組み、協力機関の紹介

第1層協議体（市全域）

他地域でも共通する課題の共有

市全体の取り組み

↓予算上などで実行することが難しい場合

地域ケア推進会議

高齢者サービス課、第1層SC、社協など

事業や施策化の協議

6. 事業全体の予算について

歳出 10,166,000 円

第1層委託 3,011,000 円 第2層委託料（社協） 6,608,000 円

歳入 介護保険特別会計 地域支援事業 包括的支援事業

（国 38.5%、県 19.25%、市 19.25%、第1号被保険者 23%）

福津市としての支出 1,945,000 円

7. 担い手、成り手不足について

担い手、成り手不足が課題となっているのは同様、いろいろな役が同じ人に集中してしまう。

定年後の受け皿、地域とのつながりの一つとしていきたい。

8. 質疑応答

Q 課題解決がボトムアップの形となっていることについて（畑中委員長）

A 福津市では他でもボトムアップの形で取り組んでいる。地域包括支援センターでは、総合相談などを月に1回まとめて、地域包括支援センター、第2種生活支援コーディネーター、社会福祉協議会が話し合う場を持ち、課題の解決を図っている。

Q 担い手不足の解消として、各郷づくりエリアや協議体を活用する狙いがあるのか。（畑中委員長）

A この次の担い手が出てくればいいなど思っているが、この取り組みは今年度からなので、まずは、地域の課題の解決に取り組んでいる。ほかに、介護予防のサポーターなどが地域でも活躍するようになればいいなど思っている。いろんな事業に相乗効果が出、結果として次の担い手が出てくることを期待している。

Q 予算については、介護保険会計なのか一般会計なのか。介護保険会計ならば、何をもって介護保険会計となるのか。（木戸委員）

A 介護保険特別会計となっている。通所型サービスCについては、介護保険特別会計の地域支援事業の日常支援事業に当たる。生活支援コーディネーターについては、同じ生活支援事業の包括的支援事業に当たる。

Q サポートセンター「サンクス」について、建物を借りているならばどういった契約か。（木戸委員）

A 企業の使わなくなった保養施設を、月2万円で自治会が借りている。H28年から5年間で借り、更に3年延期し、現在に至っている。

Q 「サンクス」の寄り合いの場にスタッフ・サポーターの皆さんがいますとなっているが、何人くらいいるか。(明石副委員長)

A 自治会の中に運営委員会があり、総人数としては、現在20人くらいおり、会員は増えつつある。すべてボランティアとなっている。

Q 「サンクス」の来場者を増やす取り組みは何か。(明石副委員長)

A 当初から、寄り合いの場、集いの広場、買い物支援、移送支援、生活支援の5つのテーマで取り組みをしている。これらの取り組みから利用したいというニーズが増え、来場者は増えている。

Q 「サンクス」の参加者は、地区の人だけなのか。(阪口委員)

A 地区の人のために作ったが、近隣の区の人も利用したいとの要望を受け、区外の方は費用を徴収して利用を受けている。

Q 「サンクス」への移動手段は。(阪口委員)

A 遠いから迎えに来てほしい等の課題が寄せられ、「お互い様会」といったグループを作った。送迎は、そのメンバーが行っている。

Q 自治会の加入状況、取り組みはどうか。(寺島委員)

A 若い世帯にむけて、スマホで回覧板を回すなど、新しい取り組みをしているところもある。

Q 次の担い手への対策は何かあるか。(清水議長)

A 「サンクス」では定期的に体力測定を行っており、看護大学の学生が来ている。こういった異世代・異業種との交流を図るなど、直接の対策ではないが、これらの取り組みも次の担い手につながっていけばと考えている。

宮地地区では、以前から「ごみ隊」という分別収集を少人数のグループで活動していたが、徐々に地域の人に参加するようになり今では40人ほどになっている。グループで活動すると楽しそうに見える。これらの活動が、次の担い手につながっていけばと考えている。

※「サンクス」の収支について補足説明

「サンクス」では家賃20,000円、水道光熱費25,000円かかっている。市からの補助が1日1,200円、月24,000円になる。徴収している使用料が20,000円ありちょうど収支は均衡している。

9. まとめ

地域包括ケアシステムでは、医療・介護・住まい・生活支援が包括的に確保できる体制の構築を目指している。その一つとして、生活支援コーディネーターや協議体が高齢者の社会

参加及び生活支援を行う役割を担っている。生活支援コーディネーターの役割としては、資源開発、関係者のネットワーク化、地域の支援ニーズとサービス提供のマッチングなどのコーディネート業務がある。これらコーディネート業務がうまく機能すると、サービスを受ける高齢者だけでなく、自治会などのあらゆる地域の団体が活性化され、地域の活性化が見込まれる。

福津市においては、制度発足前から現在に至るまで、「ささえ合い協議体」として話し合いを続け、それらが各地域での活動の活性化につながっている。各地域においても一人ひとりの利用者の課題を拾い上げ、解決につなげている。特に、移動支援買い物支援などは、小売り企業、社会福祉協議会、NPO団体、ボランティア等多くの団体を巻き込みながら非常に成功している例であるといえる。

また、宮地3区で取り組んでいる「サンクス」の運営については、企業が利用していない保養所を再利用し活動の拠点としている非常に成功している例であった。そこでは、生活支援コーディネーターが中心となって一人ひとりの課題に応え、その解決のためにいろいろな機関が支援し、利用が増えるとともに、それを支える側の方の参加者も増えるという、支援の輪の正循環が形成されている。

福津市における、「ささえ合い協議体」及び「生活支援コーディネーター」の取り組みは、非常にうまくいっている例であるが、これらは、ボトムアップの体制を整えることで成り立っていると見受けられる。福津市も次の担い手不足が課題であるとしているが、いろいろな活動の支援の輪を広げ、次の意欲ある人へと繋げることが解決方法であるとみている。

本市においても、次の担い手不足が最大の課題であると認識している。地域で熱心に活動される方も多い中、ともすれば市からの押し付けととられかねない場面も想定される。そうならないように、本市においてもボトムアップの仕組みを構築することが重要であり、一人ひとりの課題を多くの機関を巻き込んで解決していく仕組み作りが大切である。これらを実践している福津市の取り組みは非常に示唆に富んでおり、今後参考すべきことの多い内容であった。

オンライン視察について

本視察は、本市議会における初めてのオンライン視察であり、福津市においても初めての試みであった。本市、福津市議会事務局、福津市福祉高齢者サービス課、生活支援コーディネーター2名によるZOOMによるオンライン会議であり、おおむね順調に視察を行うことができた。しかし、途中には回線の切断があったり、ハウリングが起きたりなどの問題があった。技術的な問題については、今後改善を図っていきたい。今回、コロナ禍という移動が制限された中でも視察が行えたことは、非常に大きな成果があったと思われる。基本的に視察は、実際に見て肌で感じるということが非常に重要であるが、移動がやむを得ない場合には、非常に有用であることが確認できた。